

愛知県地震概況

令和7年（2025年）1月

この資料は速報であり、後日の調査で修正することがあります。

○概況

1. 愛知県内で震度1以上を観測した地震の状況

1月に愛知県内で震度1以上を観測した地震が1回発生しました。

2. 愛知県内や愛知県周辺で発生した主な地震

①26日09時16分に三重県北部でM3.2の地震（最大震度1 深さ40km）が発生しました。

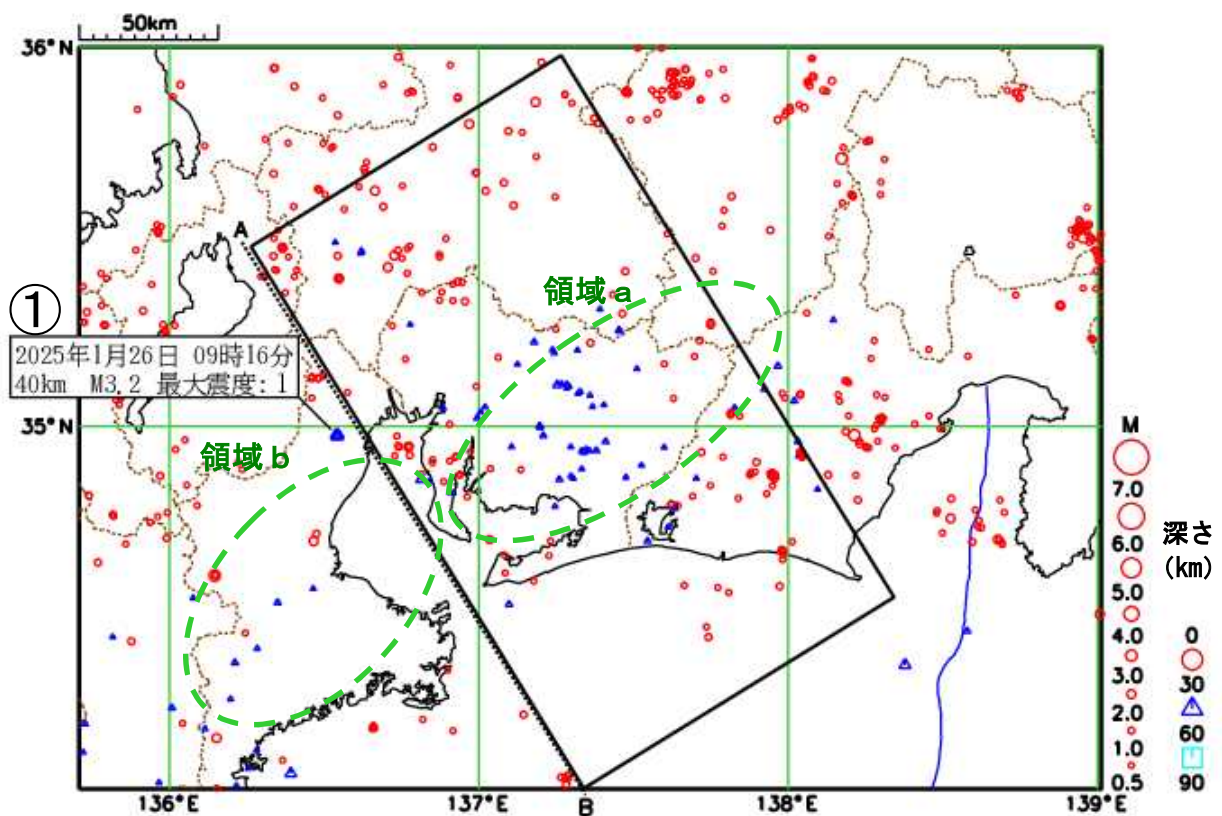
3. 深部低周波地震の活動状況

・東海（領域a）

25日～31日

・紀伊半島北部（領域b）

4日、14日、24日～28日



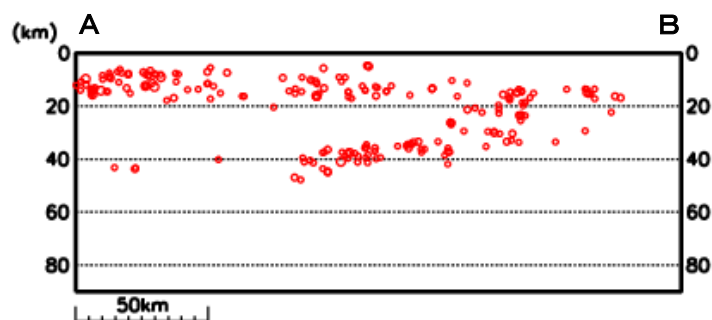
震央分布図（2025年1月1日～31日 深さ0～90km M≥0.5）



深部低周波地震（微動）

深部低周波地震の震央は震源決定精度が高くないため、地震が発生した領域を破線で表示しています。

（注）Mはマグニチュード（地震の規模）の略です。



左の断面図は、震央分布図中の斜めの四角形内の震源を、A－Bに沿って置いたスクリーンに投影する形でプロットしたものです。深さ 25km 程度までの浅い震源の分布域は、陸側プレートの地殻内の活動によるものです。

○県内で震度 1 以上を観測した地震

三重県北部（1 頁目震央分布図①）

1 月 26 日 09 時 16 分に三重県北部で発生した M3.2 の地震（深さ 40km）により、愛知県一宮市・知多市、滋賀県で震度 1 を観測しました。（図 1）

この地震はフィリピン海プレートの内部で発生しました。

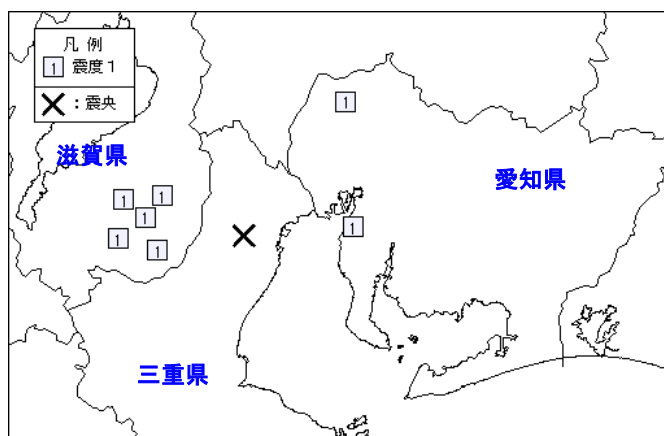


図 1 1 月 26 日 09 時 16 分 M3.2 震度分布図
（観測点別、×：震央）

○震度 1 以上を観測した地震の表（愛知県）

震源時（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
各地の震度					
2025 年 01 月 26 日 09 時 16 分	三重県北部	34° 58.5' N	136° 32.5' E	40km	M3.2
愛知県	震度 1 : 一宮市千秋, 知多市緑町 *				

（注 * 印の地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。）

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※本資料中で使用している地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。

※地震関係の資料・情報は、名古屋地方気象台のホームページ『<https://www.data.jma.go.jp/nagoya/index.html>』からも随時ご覧になれますので、あわせてご利用下さい。

※2020 年 9 月以降に発生した地震を含む図については、2020 年 8 月以前までに発生した地震のみによる図と比較して、新たな海域観測網観測データの活用等により、震源の位置や決定数に見かけ上の変化がみられることがあります。

「南海トラフ地震臨時情報」について

昨年8月8日の日向灘 M7.1 の地震で、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表されました。また、1月13日の日向灘 M6.9 の地震では、検討の結果、南海トラフ地震臨時情報（調査終了）となりました。

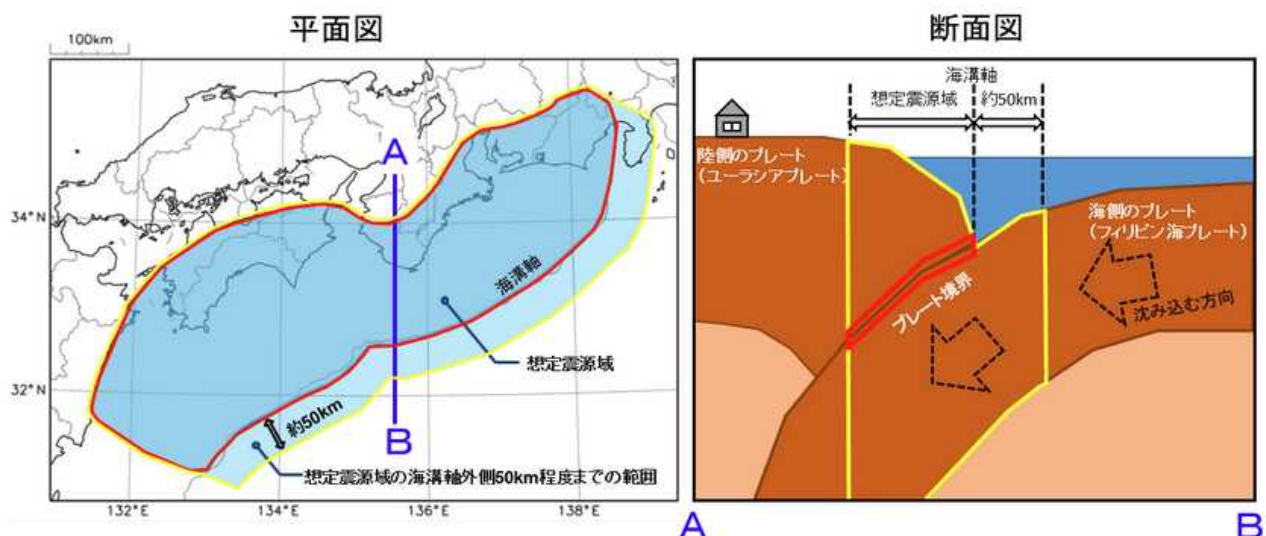
このように、「南海トラフ地震に関連する情報」は、南海トラフ全域を対象に地震発生の可能性の高まりについてお知らせします。（南海トラフ地震臨時情報・南海トラフ地震関連解説情報）詳細は、以下ページをご参照ください。

気象庁 HP https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/nteq/info_criterion.html

「南海トラフ地震臨時情報」に付記するキーワードと各キーワードを付記する条件

情報名の後にキーワードを付記して「南海トラフ地震臨時情報（調査中）」等の形で情報発表します。

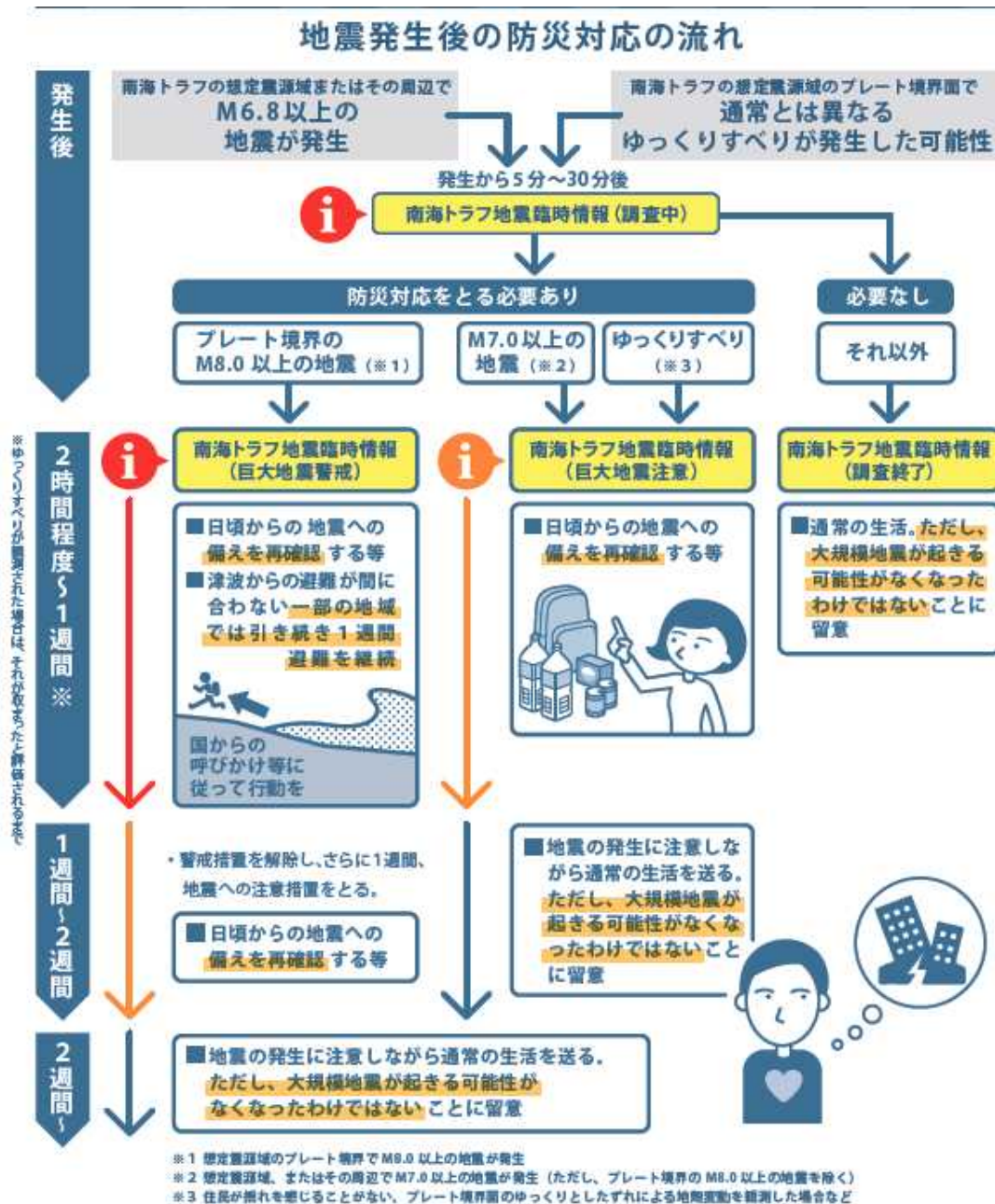
キーワード	各キーワードを付記する条件
調査中	下記のいずれかにより臨時に「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催する場合 - 監視領域内（下図黄枠部）でマグニチュード6.8以上※¹の地震※²が発生 1カ所以上のひずみ計※³での有意な変化※⁴と共に、他の複数の観測点でもそれに関係すると思われる変化※⁴が観測され、想定震源域内のプレート境界（下図赤枠部）で通常と異なるゆっくりすべり※⁵が発生している可能性がある場合など、ひずみ計で南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる変化を観測 - その他、想定震源域内のプレート境界の固着状態の変化を示す可能性のある現象が観測される等、南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる現象を観測
巨大地震警戒	想定震源域内のプレート境界において、モーメントマグニチュード※ ⁶ 8.0以上の地震が発生したと評価した場合
巨大地震注意	- 監視領域内において、モーメントマグニチュード7.0以上の地震※²が発生したと評価した場合（巨大地震警戒に該当する場合は除く） - 想定震源域内のプレート境界面において、通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価した場合
調査終了	（巨大地震警戒）、（巨大地震注意）のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合



想定震源域内（科学的に想定される最大規模の南海トラフ地震の想定震源域（中央防災会議、2013））のプレート境界部（図中赤枠部）と監視領域（想定震源域内および想定震源域の海溝軸外側50km程度：図中黄枠部）

南海トラフ地震から自らの命や家族の命を守るためには、「日頃からの地震への備え」を実施することが大切であり、大きな地震が起きた時はまずは自分の身を守る行動を取りましょう。

- 南海トラフ沿いで異常な現象が観測されず、本情報の発表がないまま、突発的に南海トラフ地震が発生することもあります。
- 地震発生の可能性が相対的に高まったと評価した場合でも南海トラフ地震が発生しないこともあります。
- 国から後発地震に対して注意する措置を解除された後であっても、南海トラフ地震発生の切迫性は高い状態にあり、いつ地震が発生してもおかしくないことに留意が必要です。



リーフレット「南海トラフ地震 -その時の備え-」から抜粋しました。
ご参照ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/nteq/index.html>